



医療法人山陽会 長門一ノ宮病院
4階病棟便り 「だんだん」第7号
山口県下関市形山みどり町 17 番 35 号
TEL:083-256-2011
FAX:083-256-9004
発行責任者 稲野 秀
令和8年7月1日発



インタビュー企画第二弾

～実際に入院を経験された家族に体験談を聞いてみよう!!～



4階病棟師長 上利 浩史

児童思春期病棟に入院してこられる子どもさんの親御さんは、いろいろな葛藤を抱えながら子どもさんの入院を決断されたことと思います。実際に入院された子どもさんのご家族に当時の心境についてインタビューを行い、入院ができるまでの苦労や入院してみてもの感想などの体験をお聞きしてみました。

Aさんは知的障害を伴う自閉スペクトラム症のお子さんです。夏休みをきっかけに生活リズムがくずれ、不穏な状態がつづき、ご家族も大変な思いをされていました。入院を勧められ、受診・入院を決めるまでも大変迷われた上で、入院を決められました。

Q 入院するまで苦労したことは?どんなことでしたか?

A なかなか預かってもらう所がなかった、見つからなかった…。我が子の不穏行動でいざ困った時、本人を預けたいなと思っても現実的には難しい事を知った。色々探しても無いことに気が付いた。山口県内で障害を持つ子どもが入所できる施設が二つしかないことと、専門の病棟をもつ病院が一つしかないことを初めて知った。

Q 入院ができることが決まってどのような気持ちでしたか?

A 最初は迷ってしまった。まだ小さいし、かかりつけ医から「まずは医療に乗ろう」と言われたが、精神科に入院?という思いと、どんなところかな?という不安と、精神科に対する勝手なイメージがあった。病院のホームページやパンフを見たがざっくりとしたイメージしかなかった。

Q 入院してみてもうでしたか?

A いざ我が子と離れるとなると、初めての入院でもあったし、わからないことが多くて不安だらけだった。1回外泊をして帰院した際、本人がうれしそうに病棟に帰っていく姿を見て安心した。「病棟は本人も安心して過ごせる、安全で楽しい場所なんだな」と認識することができた。

Q 入院させてよかったですか?

A 入院させて良かった。学校などでも後追いがひどかったが、学校でバイバイできるようになり、状態がかなり改善し、自宅でも落ち着いて過ごせるようになった。3か月入院したが、わからないことや不安に思っていることを病棟のスタッフさんに気軽に相談できて、丁寧に詳しく説明していただいたので、様々なことが理解できて、親としても安心できた。

Q 入院を迷われているご家族へひとこと

A 今後困った時に一つでも相談できる場所ができたことは大変よかったと思います。

ほんの一部ですが体験談を紹介させて頂きました。現在我が子を入院させたいけど、どうしてよいかわからない、入院に迷っているご家族の皆様はこの体験談を通して、少しでも入院について理解して頂き、不安な気持ちを取り除き、入院に対して前向きになっていただければ幸いです。

こども達の声をお届けします

前のページでは、親御さんのお気持ちをお聞きしましたが、このページでは入院している子ども達が入院生活について答えた声をお届けします。

入院すると、家族とも離れての生活です。治すべき事があるので、治療自体は大変ですが、学びや楽しみもあります。ご家族には子どもの入院生活が想像できずに心配もおありでしょう。頑張っている子ども達の率直な感想から、入院生活が想像でき、不安も和らげばと思います。

子ども達には次のように質問を投げかけ、感想をもらいました

皆さんは、家庭や学校などで、困った行動や人に迷惑を掛ける行動、あるいは自分がつらいことがあって入院治療をしています。

望んで入院した人も、望まなかったけれど入院になった人もいます。

でも、入院をすることで、皆さんの困った、あるいは周りが困ったことが少しでも減り、あなたも周りの人も、皆が安心・安全に過ごせるように、病院スタッフは病棟でのルールや日々のスケジュールを考えています。病棟での生活について、皆さんがどのように考えているかを教えてください。

入院して良かったこと、頑張っているけど難しいことについて、教えてください。

Q 「4階病棟 ルールブック」(病棟ルール)について

- * 量が少し多くて覚えるのが難しいルールもあるけど、わかりやすいところもある。わからないところは看護師さんに聞いた。皆が安心・安全に過ごせて皆がルールを守っているから、入院している患者さんが安心・安全に過ごせると思う。
- * 大切だけど、よくわからない時がある。
- * ルールブックがあると、この行動をしたら人に迷惑をかけてるとわかるから良い。
- * 最初は量が多く難しいそうと思ったけど、頑張り過ぎなくてもちゃんとまもれるから良いと思う。
- * ルールをくわしくかいてほしい。新しいルールが追加されたいってほしい。
- * 書いてあるルールがとても見やすくできている。
- * ルールブックには、病棟での過ごし方そして常識のルールを教えてくれているんだと思う。たまに多すぎるんじゃないかとか、これって必要？っていうものもあるけど、いざ外出や外泊に出ると必要性がわかる。

Q 「学習時間」について

- * 丁度良い。静かに勉強できる。
- * 夜の勉強時間にとときどき、喋っている人がいるから、喋らないと皆が意識してくれたら、皆が集中できていいと思う。
- * 学校とは違って、一人でじっくり考えられる。
- * ちょっと多い。少し長いと感じる。
- * 勉強したい人のために、自由時間も学習室を使えたらいい。
- * 昼の学習だけ、20～15分がいい。眠い。
- * トイレに行ったら時間が増えるのがきつい。
- * このままでも良いけど、人と教え合ったりできるようになってほしい。
- * 平日は少し長いと思うが、しっかりと学習もでき、皆も静かに取り組んでいる。
- * 勉強は基本的に自習。ルールに「質問があれば自由時間に聞いて」とあるが、看護師さんに聞いて答えてくれない人が多い。



Q 「作業療法(OT)」について

- * SSTでは「からかったり、冷やかしたり、笑ったりしない」というルールがあるので、安心・安全にできる。OTについては自分の事ですけど、負けたときに、はぶてたりしない方がいいと思う。勝ったときはあまり喜びすぎないほうがいいと思う。
- * 運動ができるから良い。
- * 制作の日を増やしてほしい。
- * おもしろくないものとすごく楽しいものがあるが、おもしろくないのが多い。でも最近はすごく楽しい。
- * 手先が器用になる。工作が上手くなる。いろんなものが作れるから楽しい。
- * 運動の時間をもっと増やしてほしい。制作では、もっと難しいものを作りたい。
- * とても楽しく取り組んでいる。普段体を動かせていなかったの、とても良かった。
- * 普段は気まずくて話しかけられない子ともチームになると話せるから楽しい。



Q 「土曜プログラム(認知機能強化訓練、SST、生活の中で大事なことの学習)」について

- * 人の話を聞くことが大切。楽しむことも大切だけど、ちゃんとやるってなったら、気持ちを切り替えてやるのが良い。
- * コグトレは毎回同じ内容が続くと、やる気がうせてくるから2回に1回は変えてほしい。
- * 毎回違うものをやるので少し頭がこんがらがる。難しいものもあり、わからなくなることが多々あったけど、まあまあ楽しい。
- * 皆が真面目にやって積極的にやってルールを守りつつ、安心・安全にやっていくことが大切と思う。
- * 自分だけで考えてもわからなかったこととか、役に立つことを学ぶことができる
- * もうちょっと上手に活用できるように教えて。学んだことを変な使い方をする人がいるから。
- * たまに難しいけどわかりやすくて良い。
- * 集中力がつく。何か楽しい。
- * 皆の意見を聞くと、新しい考え方が生まれる。
- * 学ぶことが多い。
- * 毎回テーマを変えてやるけど、前にやったことを振り返られるのでとても良いと思う。
- * 他の病院・病棟では、そういうことを学べるかわからないから勉強になる。



Q 入院生活について

- * 保護室に入っているので入院生活で、まだ分からないことがあると思うけど、意外とおやつだったり、外を見ることだったり、楽しい事はある。けど今までと違う生活で少し疲れる。他の子が暴言を言っていることがあり気になる。
- * ご飯を食べ終わって、急いで下膳をする人がいるけど、そこを落ち着いて、ごちそうさまを言うことが大切だと思う。
- * 最初は難しいと思ってたけど、今、考えるとあたりまえと思う。
- * 悪いことをして、入院したけど、落ち着いた。良くなった。
- * 人を殴らないようになった。
- * 入院してとても良かったと思う。
- * 入院してなかったら気づかなかったと思うことにも気づくことができることがある。
- * 最初は入院したくなかったけど、ちゃんと治療に向き合って、退院したときに入院して良かったって思えるようにしたい。
- * 暴力、暴言をしなくなって、人に相談できるようになって良かったと思う。
- * 看護師さんによって言ってる内容が違うことがあるから統一させてほしい。トラブルがあったときにはすぐ対処してほしい。
- * 楽しい。ごはんがおいしすぎる。おもしろい看護師がいる。
- * 低学年の子たちのトラブルが多い。でも楽しく生活することができている。
- * 私にとっての入院生活は、一人で過ごすことの練習や合わない人とどうやってやっていくかなどの人間関係の練習だと思っている。



書籍紹介

『おやくそくえほん はじめての「よのなかルールブック」』 日本図書センター
監修：花まる学習会代表 高濱正伸、 絵：林コミ

書店に行くと子育てに関わる書籍を多く見受けます。その中には文字数の多い堅苦しい本もあれば、薄くてイラストなどが多い、読みやすい本も置かれています。今回紹介する本は絵本になっているものです。絵本の名前は、“おやくそくえほん はじめての「よのなかルールブック」” といいます。普段私たち援助者は、子どもたちが、自分にも相手にも優しくなれて、同時に生きるたくましさも宿していけるように成長してくれることを願って関わっています。子どもたちが成長するには、まず自分のこと、相手のこと、世の中のことを知っていくところから始めなくてははいけません。そんな子どもたちに1回は目を通してもらいたいのがこの本です。この本には、社会生活の基本ルールが、楽しいイラストを用いて40個ほど紹介されています。そのルールはどれも、あたりまえ過ぎると思われるかもしれませんが、いくつか紹介すると、「ふ



きげんでいない。」「あいさつをする。」「ひとのはなしはさいごまできく。」などがあります。これらのルールがどうしてみんなにとって大切なのか、どのページにも理由がわかりやすく書かれています。私はこの絵本を読んで、正直なところドキッとしました。自分が基本ルールを守れていなかったりするので。家族の前で不機嫌な日もある。「ありがとう」「ごめんなさい」が抜けたりする。人の話を途中で遮ったりする・・・などなど。私も反省してがんばります。このような訳で、私のような大人にも充分刺激を与えてくれる絵本になっていますので、保護者の方々も、もし良かったら書店で手に取ってみたいと思います。

姉妹本として、『あんしんえほん はじめての「よのなかルールブック」』という絵本もあります。こちらは、子どもたちが世の中を安心安全に生きていくための行動が、同じく40個ぐらい載せてあります。こちらもおすすめの絵本です。

(紹介者 渡邊 正寿)

<編集後記>

今年は2月のミラノ・コルティナオリンピックに始まり、3月のWBCワールドベースボールクラシック、6月のサッカーワールドカップと、年明けから、スポーツの祭典が目白押しでした。画面越しにアスリートの諦めない姿勢、例え結果が出なかったとしても清々しくやり切ったという態度や頑張りにはたいへん感銘を受けました。メダルを取りたい、世界のトップになりたいとの思いでアスリートは、何年もかけて大会に備えて準備をします。スポーツの世界だけではなく、日頃の私たちの生活でも、物事の前準備や情報収集は大切なことです。さて今回のだんだんでは実際に入院を経験した家族や入院中の子供たちにインタビューを行いました。少しでも生の声・

実際をお届けすることで、病院を知っていただき、入院に対して理解していただけると幸いです。(A.H)



※これまで発刊した「だんだん」で、病棟生活やルールブックなどを紹介しています。
バックナンバーは、当院のホームページでご覧いただけます。

